第 12 回

さくらサミット in 幸手

～幸せの手でつかむさくらの未来～

報告書

開催日　　平成 12 年 4 月 9 日（日）・10 日（月）
会　場　　アスカル幸手
主　催　　埼玉県幸手市

目次

開催概要・タイムスケジュール…… 2

参加自治体紹介 …… 3

講師プロフィール …… 4

第 4 回さくらサミット大賞押花絵コンクール in 幸手 5

主催者あいさつ …… 9

来賓あいさつ ……10

基調講演 ……12

サミット討議 ……17

次期開催地発表 ……34

共同宣言 ……35

第 9 回幸手市さくらマラソン招待選手寄稿文……39

開催概要

■名　称　　第 12 回さくらサミット in 幸手

■開催日　　平成 12 年 4 月 9 日（日）・10 日（月）

■会　場　　アスカル幸手及び権現堂桜堤

■主　催　　幸手市

■後　援　　幸手市観光協会・幸手市商工会

■開催関連イベント

○第 70 回幸手桜まつり　権現堂桜堤　3/26sun-4/16sun
○第 9 回さくらマラソン大会　幸手市勤労者体育センター　4/9sun
○参加加盟自治体紹介物産展示コーナー　アスカル幸手　4/9sun
○写真コンクール　権現堂桜堤　-4/30sun
○記念植樹　権現堂桜堤　4/10mon
○第 4 回さくらサミット大賞押花絵コンクール in 幸手
アスカル幸手・北公民館　4/6thu-4/10mon
○押し花体験会　アスカル幸手・北公民館　4/6thu-4/10mon
○押し花講座　アスカル幸手　3/15wed 3/22wed 3/29wed

タイムスケジュール

4 月 9 日（日）

●13:30　開会
●13:50　基調講演
講師：土屋桃子／（財）日本さくらの会理事
テーマ：「桜を慈しむ人びと」
●14:30　サミット会議
参加自治体：18 自治体
ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：篠田伸夫／全国町村議会議長会事務総長
テーマ：さくら「新発見」「新情報」
～幸せの手でつかむさくらの未来～
○共同宣言・次期開催地発表
●16:30　閉会
●18:00　交流会
●19:45　夜桜見学
●21:00　終了

4 月 10 日（月）

●8:45　記念植樹
●9:15　幸せの手形取り
●10:45　さいたま新都心見学
●12:00　昼食
●13:00　解散

参加自治体紹介

	自治体名・役職	氏名
1	北海道静内町経済部長	吉田享秀
2	宮城県柴田町都市計画課公園緑地係長	大内　孝
3	秋田県角館町長	高橋雄七
4	福島県富岡町企画課長	佐藤重志
5	茨城県日立市長	樫村千秋
6	群馬県鬼石町長	関口茂樹
7	埼玉県北本市長	加藤　高
8	東京都北区長	北本正雄
9	新潟県上越市副市長	大野　孝
10	新潟県加治川村長	秦野喜平
11	長野県高遠町収入役	山川　隆
12	奈良県吉野町助役	森本芳文
13	岐阜県根尾村助役	山田良雄
14	島根県木次町助役	小村伸治
15	長崎県大村市助役	島　信行
16	熊本県水上村長	成尾政紀
17	宮崎県北郷町長	植野章一
18	埼玉県幸手市長	増田　実

講師プロフィール

土屋　桃子（つちや・ももこ）

（財）日本さくらの会理事／プラス・グループ代表取締役

“日本の文化を内外に広報する”というライフワークにとりくみ、プロデューサーとして水、緑、花、土、生活など普遍的なテーマをベースに、まちづくりから広報ツールの企画、制作まで幅広く文化活動に力を注いでいる。

- さくらを通して日本人の心を見つめ直す
  “マインド・ルネッサンス”運動を推進。
  「さくらの日制定推進」「全国学校へのさくら植栽事業」
  「さくらコンテスト」等を企画、実施
- 1984 年より日本の美術品をテーマとした
  美術ダイアリーの企画、制作
- 1988 年 10 月より月刊誌「水の文化情報誌　FRONT」を企画、制作。
- (財)日本さくらの会及び建設省関東地方建設局提唱による「さくら」を縁とする荒川・ポトマック川姉妹河川交流活動を推進。

篠田　伸夫（しのだ・のぶお）

全国町村議会議長会事務総長・元自治省消防庁次長。

1943 年鳥取県生まれ。67 年京都大学法学部卒業後、自治省入省。青森県地方課長、出雲市助役、消防庁救急救助室長を経て、87 年より岐阜県総務部長兼博覧会推進局長として「ぎふ中部未来博覧会」を成功に導く。89 年自治省振興課長、90 年東京都総合計画部長、行政部長、93 年岐阜県副知事を経て、97 年 1 月より消防庁次長を務める。98 年 7 月より(財)救急振興財団副理事長、2000 年 4 月より現職。

● さくらサミット大賞 ●

幸手市長賞	柳崎啓子
関東郵政局長賞	青木啓子

● 特別賞 ●

幸手郵便局長賞	山田加代子
（財）日本手芸普及協会賞	中村多州子
審査員特別賞	渡部千栄子
ふしぎな花倶楽部賞	渋沢志げ子

第12回
さくらサミットin幸手
～幸せの手でつかむさくらの未来～

主催者あいさつ

埼玉県幸手市長　増田　実

全国のさくらサミットのメンバーの皆さん、ようこそ幸手の地を訪問してくださいました。心から感謝申し上げる次第でございます。そして埼玉県知事土屋義彦様を始めといたします来賓の皆様方、さらには会場の皆様方、大変お忙しい中、ご臨席を賜りまして、心から感謝申し上げます。また、全国のさくらサミットのメンバーの方々におかれましては、さくらマラソン大会に選手を派遣していただき、感謝申し上げる次第でございます。私も、初めて 16 キロコースに出場し、完走いたしましたが、大変きれいなコースだと実感いたしました。大会関係者の方々には心から感謝申し上げます。

さて、今日、明日とさくらサミットが開催されますが、この開催にあたりましては桜を愛する幸手市民の願いが込められていると思います。昭和 36 年に私は高校に入学をし、自己紹介で「桜で有名な幸手」と言いましたところ、幸手の桜は知らないと言われ、私は幸手の桜は残念ながら自己満足の桜だと感じました。しかし、とても美しく立派な桜なので、いつの日にか有名になればと思っておりました。

私は 7 年前に市長に就任し、良いまちをつくるために一生懸命頑張っておりますが、一方では桜を有名にする夢も持ちつづけてきました。桜に関しては「さくら 10 万本植栽運動」を通して、権現堂堤や市内の桜の保護・管理、また公園整備等に力を入れてまいりました。また、マスコミにも協力をいただき、テレビや新聞で報道されるようになり、その結果、桜の時期には何十万人の人出になったのでございます。

さくらサミットには市長に就任した翌年に初めて参加いたしました。さくらサミットは全国の桜自慢の市区町村が一堂に会する会議です。このサミットに出席するために、全国の有名な桜の名所を視察し、その素晴らしさを実感してきました。しかし、幸手市の桜も同様に素晴らしいと思いました。このようなことから、さくらサミットのメンバーの方々に幸手市にお越しいただいて感想をお聞きし、評価をいただきたい。併せてサミットを通じて幸手市の桜をさらにＰＲしたいと考え、本日の開催にいたったものでございます。

今後も、皆様のご協力をいただきながら、良いまちをつくるために、さらには桜を通してのまちづくりに一生懸命頑張ってまいりたいと考えている次第でございますので、皆様方のさらなるご支援のほどを心からお願い申し上げます。

結びに、会場の皆様の、そして各自治体の弥栄を心からご祈念申し上げ、ご挨拶といたします。本日は誠にありがとうございました。

埼玉県知事　土屋義彦

本日ここに「さくらサミット in 幸手」が埼玉県議会議員の秋谷昭治先生、また佐伯圭司幸手市議会議長さんはじめ議員の皆様方、それから幸手市商工会会長さん等々、大勢の皆様方のご出席の下に盛大に開催されましたことを心からお喜びを申し上げます。開催にあたりましてご尽力をされました増田市長さんをはじめといたしまして、市ご当局、幸手市観光協会ならびに商工会など、関係者の皆様のご努力に対しまして深く敬意を表します。

また全国各地からお集まりをいただきました皆様方には彩の国さいたまへお出ましをいただきまして心から歓迎申し上げます。ここ埼玉県は関東の中心にちょうど位置しておりまして、人と自然と産業に恵まれた若さと活力にあふれた県でもございます。どうかこの機会に県内各地を訪れ、本県の魅力に触れていただきたいと存じます。

本日も桜が満開でございます。桜はわが国の代表的な花として広く親しまれると共に、入学式や入社式など人生の節目を飾る花として欠かせない存在でもございます。また、本県にはここ幸手市権現堂桜堤をはじめ、県中央部の大宮公園やまた県西部の狭山湖、熊谷の桜堤や秩父の美の山公園など、各地に数多くの桜の名所がございます。こうした本県におきまして、桜に関係する全国の自治体の皆様方が一堂に会され、サミットを通じて交流を深められますことは、豊かな地域づくりを進める上で誠に意義深く、皆様方に対しまして深く敬意を表したいと思います。

さて私は常々、政治の原点は地方自治にある、市町村が豊かにならなければ国も県も栄えないと申し上げ、知事就任以来、市町村重視の県政を進めております。昨年は地方分権一括法が成立いたしましたが、このなかでも国と地方は上下、主従の関係ではなく、対等、協力の関係であることが明記されております。どうか皆様方には地域づくりの担い手であるという誇りを胸に、素晴らしいまちづくりに取り組んでいただきますよう心からお願いを申し上げます。

お陰を持ちまして本県におきましては、21 世紀の埼玉を彩る主要事業も順調に進展をいたしております。皆様方もここに来る途中、ご覧になれたかと思いますが、大宮駅の隣、48 ヘクタールの広大な土地にいま埼玉新都心の建設をしております。明治以来初めてともなる本格的な政府機関の移転、すなわち国の出先、10 省庁 18 機関の移転が実現いたします。

いよいよ 5 月 5 日には待望の街開きを迎えるところでもございまして、すでに多くの政府機関が移転を終えて業務を開始しております。また 48 ヘクタールのうちの 10 ヘクタールに、県がさいたまスーパーアリーナを建設しております。これは 6000 席から 3 万 7000 席までの各種のイベントに対応できる世界最大級の可動システムを備えた施設でございます。今年の 9 月には、このスーパーアリーナでアメリカなど代表チームによる国際バスケットボール大会が開かれる予定でございます。

また 2001 年、来年でございますが、ユースのバスケットの世界大会、そしてまた 2006 年には 15 回目の

男子の選手権大会が開催されることも決まっております。また本県は 2002 年ワールドカップサッカー大会の会場にも選ばれておりまして、6 万 3000 人が観戦できるアジア最大級のサッカー専用球場、埼玉スタジアムを現在、浦和市に建設しております。スタジアム完成のあかつきには、私は中国や韓国など近隣諸国の子どもたちを本県に招いてホームステイ等を行い、子どもたちの友情を通じて世界の平和に貢献したいと考えている次第でございます。どうぞ皆様方にもご支援、ご協力を賜りますよう心からお願いを申し上げます。

終わりに、本サミットの開催にご尽力いただきました関係の皆様方に深く敬意を表しますと共に、本サミットのご成功と皆様方の益々のご活躍をご祈念申し上げまして、私のご挨拶とさせていただきます。

基調講演

「桜を慈しむ人びと」

（財）日本さくらの会理事　土屋桃子

今日は第 12 回のさくらサミットということで、全国各地から桜を慈しんでいらっしゃいます大勢の皆さまにお集まりいただき、このような立派なサミットを催していただきまして、逆にこちらのほうこそお礼を申し上げなくてはいけないと思っております。

今回このさくらサミットにお招きに預かりまして光栄に思ったと同時に、大変恥ずかしいなと思いましたのは、日本で桜を専門に活動している財団法人は日本さくらの会しかないのですが、このサミットにこのような形で参加させていただくのは実は初めてなのです。そういう意味でさくらの会ももう少ししっかり皆さまのお役に立てるように頑張らなければいけないと思ってまいりました。

財団法人日本さくらの会は、桜によって国土を美しくしようという目的で昭和 39 年に設立されました。従いまして今年がちょうど 35 周年ですが、47 の都道府県はもとより、現在 1234 の市町村、自治体、さまざまな組織、企業、個人の方々に会員として支えられてまいりました。その間、35 年間に約 270 万本の桜を全国に配布させていただいたり、また海外には約 50 数ヵ国、200 数十ヵ所、20 万本の桜を送らせていただいて今日まで至っております。その間、日本さくらの会が国内に送りました 270 万本の桜のうち、約 6 割以上のものが埼玉産の桜ということで、埼玉の浦和から全国に出荷させていただきました。まさに彩の国さいたまは桜の国と言っても過言ではないと思います。

実はこの桜ですが、万葉の時代よりもっと前、日本の島ができたときから日本に自生していた花木といわれていますが、万葉のころには『万葉集』にも歌われたり、また田の信仰と一体になって農業の豊穣を祈るために大事にされてきた。それが平安になりますと雅びな桜となって、美術、工芸品に描かれてきたわけですが、更に江戸の時代になりまして、桜が庶民のなかにことごとく普及した時期がございます。それ以降、明治期になりますと、桜の研究は衰退期を迎えて現在に至っているようで、このへんをよく考えて今後、桜について研究をしていかなければいけないと思うわけです。

もちろん今も多くの方々が桜を大事にして頑張ってくださっているのですが、密植による天狗巣病の問題とか、毛虫が付いて困るという苦情とか、秋になりますと落ち葉が落ちるので、この桜の木は邪魔だとか、いろいろな問題がございます。まして桜の時期には人が大勢集まってきて、根の部分をかなり踏みますので、相当な力がかかって木が弱るわけです。花が散った後に本当でしたら栄養をあげなければいけないのですが、そのまま緑の季節になってしまうと人々は桜の木から去ってしまうという状況ではないかと思います。

またお花見をする際、ビニールシートを敷きっぱなしにしますから木が呼吸できない状況になったりということで、本当に桜の木の側に立てば散々な状況ではないかという感じがするのです。そんなことにまでも耐えて、本当に 1 年間 365 日あるうちのわずか 10 日間ぐらい必死に皆さんに見てもらうために、残りの期間を我慢して一生懸命生きていく。そんな桜から学ぶことが多いなと思っています。

桜と言えば、もしここに 1000 人いらっしゃれば、1000 の桜物語があると思うのです。ですから桜にと

っての専門家というのはおりませんで、日本人全員にとっての桜だと思います。そんな桜を本当に大事に大事に守り、育て、若い人たちに継承していかなければいけないと思うこのごろでございます。

今日お集まりになっていらっしゃいます、さくらサミットの主役である自治体では、本当に桜を大事にしていらっしゃると思うのですが、そんな中でも素晴らしい桜物語があると思います。埼玉県内もそうですし、日本全国、あるいは世界中、素晴らしい桜の木を見たとしたら、実はその桜の木の陰に影武者がいて、本当に美術品を守るように桜を慈しんでくださっている人がいたのだということを思い起こします。

例えば京都の丸山公園。今の桜は二代目桜ですが、一代目が枯れてしまい二代目桜を植えた直後に、京都を直撃したジェーン台風の暴風雨にさらされました。その桜を守るために今の佐野藤右衛門さんのお父さんが、家から飛び出して暴風雨の中を丸山公園まで走って行き、桜の木を暴風雨が去る朝まで抱き抱えたという話は桜物語として大変有名です。

また今日は岐阜県の根尾谷からもいらしていると聞いておりますが、淡墨桜にしてもそうだと思います。1400 年も経つといわれる桜が昭和の初期に危ない状況になったときにも、村の方たち皆さんで協力して若い何百本もの若木を接ぎ木した。しかも産婦人科の先生がその指導をして、大工さんが大工仕事の技術を使ってその根接ぎをしたというお話は大変有名で、心に残る桜物語だと思います。

さらにさかのぼって、徳川吉宗の時代も、吉宗が頑張って江戸に桜を植えてくださいました。今日は北区からもおいでいただいているようですが、今にも残る飛鳥山の桜は八代将軍の吉宗が桜政策ということで植えた素晴らしい桜でございます。当時のことを思うと、今と同じように大変景気が悪くて、気持ちが皆さんすさんでいて、このままではどうしようもないということだったようで、時代背景が今に似ているように思います。その吉宗が考えたのがこの桜政策です。上野のお山に桜がその当時あったようですが、将軍家のお墓があり、歌舞音曲が禁止になっていたりということで騒げない。そこで江戸の東西南北に、墨田堤とか御殿山とか、小金井堤とかに桜を植えたのが今も残って桜の名所になっているわけですが、やはり吉宗も桜を慈しんだ一人ではないかと思います。

この桜を慈しむことは美術品を守ることと同じだとつくづく思うことがあります。今でこそ美術品が美術館だとか博物館にしまわれて、国宝や重要文化財と指定されるものですから、よけい距離を感じるのですが、少し昔まではそういうことはなく、ガラスケースで美術品を保存するということはしていませんでした。すぐそこにあるようなお寺さんに、後世になって国宝になるような美術品が置かれているということもありました。

しかしこの何百年も、千年以上もそういう美術品がなぜ今の時代にまで残り、私たちがそれを慈しむことができるかと言いますと、やはり桜の木と同じように影武者がいたのだと思います。例えばお寺でしたら、火災だってあるでしょうし、放火やもらい火、盗難などもあったと思います。そんなときに命懸けであの仏像を守らなければいけないと思った人たちが火のなかを駆けつけて、仏像などを命からがら外に持ち出してくれた。そのおかげで、私たちがいま素晴らしい日本文化、美術品を楽しむことができるのではないかと思うわけです。

ちょっと話が脱線しますが、埼玉県に秩父という地域がございます。和銅開珎の銅を産出したようなところですから、埼玉県の歴史よりもはるかに古い地域で、関東地方の大もとをだどっていくと全部秩父に至るというところですが、そこの日本三大曳山祭りの一つの秩父の夜祭を見学に行ったことがあります。

大変天気が悪くて、土砂降りではなかったのですが、雨のために実は山車の曳き廻しが直前に中止になりまして、山車の姿を見ることはできたのですが、市民の人たちが曳き廻すことができなかったということがありました。

この山車は文化財になっていますから、文化庁の方たちと町衆とがぎりぎりまで揉めて、結局は中止になったのですが、そのときに山車を曳き廻す方たちがおっしゃっていた言葉が大変印象的でした。山車というのは、ある意味では壊れなければ駄目なんだと。そこまでのことをおっしゃっていたのです。つまり神社のお祭りですから、山車が壊れたときのために大工さんがいるので、その方たちの技術も上がるし、またその技術を継承していって山車が逆に守れるのだと。そういう機会を大工さんたちに与えないまま、結局その山車だけを守ろうとしても山車は守れないのだということを教えてくださったのですが、桜にも学べる何かを感じました。

いずれにしても、桜を慈しむということはまさに日本文化と向き合うことだと、しみじみ思います。そういう桜の国であるということ、その歴史と文化に感動するということ、そういうことまでも、桜を見ていると私たちに教えてくれている感じがいたします。

いま本当に世の中が殺伐としているのですが、天狗巣病が桜の木に付くだけではなくて、権威病とかエリート病とか、そんな病気まで付いてしまったのではないかと思うほど世の中全体が権威主義になっていて、心から自分の桜を大事にしようとか、美術品を守ろうと思っていた素朴な気持ちがどこかに行ってしまったのではないか。そんなことすら思うわけです。桜によって、日本人の持っている本質をもう一回呼び戻して、日本文化を大事にしていければと思うこのごろでございます。

最近、環境問題がいろいろ言われています。ここの川の汚れは何 ppm だとか、すぐ数字に換算して難しい言葉を使うのですが、結局そういうことだけを言っても環境が良くならないのではないでしょうか。例えばこの川は何 ppm だからＢＯＤがいくつになるまで、もうちょっときれいにしなければいけないと言うよりも、例えばいつも忙しくて子どもと遊んであげられないお父さんが、桜の時期だけは小さい子どもの手を引いて、権現堂の桜堤に一緒に行って、あまり言葉を交わさなくてもいいと思うのです。その花を見上げて、「きれいだね。」と言う、その一言で何か大事なものが子どもに伝わるのではないかと、そんなふうにすら思うのです。素晴らしい桜を見上げて、きれいだねと言いながらパッと下を見るとごみが落ちていたり、ジュースの缶がころがっていたりするのを見れば、子ども心にいろんなことを感じるのではないかと思うわけです。桜がそういうことをも教えてくれるような気がいたします。

この桜の国日本のさくらの会で活動いたしておりまして、最近とても恥ずかしいと思うことがあるのです。最近海外から、桜の木を送ってくださいという注文が多いのです。ところがこれらがワシントン経由で日本に伝わってくることをとても残念に思っております。どうも独立国家をつくると桜を植えたがる傾向があるようです。つい最近でもスロベニアとかリトアニアとか、独立したての国々から日本の桜を送ってくださいと言われまして、できる限りお送りできるところにはお届けをしたのですが、これもいろいろ問題があって、この数年、桜の木そのものを輸出することができなくなってしまったのです。今まではさくらの会も依頼された折には桜の木を輸出していたのですが、桜の木に関してはオランダが日本から送られた桜を研究し改良して、今や世界中の桜の供給国は今やオランダになってしまいました。そんなことを大変寂しく思っております。

また、情報をワシントン経由でしか受け取れないことも大変寂しいものだと思います。ワシントンの桜があまりにも見事なので、桜の国はワシントンだと思っていらっしゃる方が多いようです。海外に送った桜では、ドイツのハンブルグにも植えさせていただいて 32 年たちます。これも見事な花を咲かせて、ドイツ人の皆さまが桜まつりが来るのを本当に楽しみにして暮らしていらっしゃる姿に感動して帰ってまいりました。ましてやワシントンの桜は、1 本 1 本それはそれは大事に育ててくださっていまして、頭が下がる思いで帰って来たわけです。今も大変大事にしてくださっているこのワシントンの桜のことについてお話をさせていただければと思います。

ワシントンの方たちも桜守、つまり桜を慈しんでいる方々ということになるのですが、この桜、1912 年、今から 88 年前の春、3 月 27 日にワシントンのポトマックの河畔に植えられた桜でございます。実はこの桜を植えた功労者である一人の女性がおります。

その方の名はまだあまり知られておりません。エリザ・シドモアという、アメリカ人の女性です。彼女は明治 17 年、つまり 1884 年、28 歳から 3 年、日本に来ています。後にポトマックに桜を植えたのが彼女が 55 歳のときでしたから、27 年間もなんとかポトマックに桜を植えたいということを思い続けていた女性なのです。

シドモアさんのお兄さんが外交官で横浜の総領事でしたから、そういう関係で彼女も日本にやってきました。シドモアさんは、もともとジャーナリストだったことと、日本文化に対して興味を持っていたので、人力車で日本国中、いろんなところを旅行しているのです。それで日本の素晴らしい風景に感動して、『日本での人力車旅行』など何冊かの著書を残しておられます。その本のなかに、とりわけ桜が美しいのだけれども、なかでも特に向島の桜に感動したと。アメリカがいま建国で、きれいなまちづくりをしようと思って頑張っているので、なんとか向島の桜と同じような風景をアメリカにももたらしたいと、そのときに熱く思ったようなのです。

その後、タフト大統領が就任されたばかりの頃、タフト大統領の奥様に提案をして、なんとか日本の桜を植えられるように頑張りましょうということになりました。当時の日系人会の会長が、ジアスターゼをつくった高峰譲吉博士で、ニューヨークにいらっしゃいました。高峰さんから外務大臣の小村寿太郎さんに相談していただきながら、大勢の日本人を動かしたのです。そして尾崎東京市長が、それでは私が送りましょうということで東京市の議会で可決し、送ってくださったのが、実はこのポトマックの桜でございます。

ところが 1910 年に送った 2000 本の桜はワシントンに到着するや害虫が付着していたため、やむなく一本残らず焼却して灰にしてしまいました。そこで、今度は数を増やして 3020 本の無菌の桜の苗木をつくって、それを送って花を咲かせているのが実は今のポトマックの桜でございます。

実はこのエリザ・シドモアさんという方は大変日本びいきな方で、ただ桜が美しい国だからというだけではなく、その著書のなかで日本人を絶賛しているのです。自分が日本各地を旅行して、さまざまな日本人に会ったけれども、世界のなかで日本人くらい素晴らしい民族はいなくて、おそらく遠い将来、日本が世界を背負って立つような国になるだろうと、そこまで彼女は言っています。それから日本の子どもたちに大変魅了されて、日本の子どもたちへというような文章も残されているのです。どういうふうに日本を素晴らしいと書いているかと言うと、清々しい日本人なんだと。心が清明で、貧しいけれども笑顔が素晴

らしいと。そして強い責任感と高い理念と素晴らしい教育水準を誇っていると。そんな子どもたちの明るい笑顔がたいへん印象的なんだということを書き残しているのです。

当時の日本は、国際社会のなかで様々な外圧があって批判されていたような時期でもありました。そう考えると、ワシントンに桜を送ることを実現させた、日本をそれだけ評価してくださったシドモアさんのスピリットを今こそ思い起こして、日本という国の将来を考えてもいいのではないか。そんな時期に来ているのではないかということをしみじみ思うわけでございます。

桜と向いあいながら私たちの住んでいる日本を、あるいは自分のまちを大事にしなければいけないなというお気持ちで、日本中の桜を大切に慈しんでおられる自治体の方々が今日もここにお集まりいただいたのではないかと思うのです。

シドモアさんはスイスで亡くなりましたが、遺言により日本に埋葬されましたから、いま横浜の外人墓地に眠っています。日本政府から大事な方ということで勲章までもらったような方ですから、きっと天国のシドモアさんが、日本という国の文化を本当に大事にできるように見守ってくれているような気がいたします。

今日、ここに桜の花の下にお集まりいただいた方たち全員心を合わせて、心にも爛漫に花を咲かせながら、ぜひ皆さん一緒に美しい日本をつくっていこうではありませんか。皆様のまちが桜で本当に美しくなり、さらに磨きがかかりますことをお祈り申し上げます。

サミット討議

【コーディネーター・篠田　伸夫】　皆さん、こんにちは。これからサミットの討議に入るわけですが、第 1 回のさくらサミットは、昭和 63 年 4 月に島根県の木次町で行われました。ちょうどその前年の昭和 62 年 6 月に東京一極集中を是正しようということで、第 4 次の全国総合開発計画が策定されました。その 4 全総のキーワードの一つが「地域間交流」という言葉でした。その地域間交流という言葉をこのサミットにおいても、一つのキーワードといたしまして、次のような狙いでサミットが行われることになったわけです。「地域間交流の時代を背景に地域振興の核として桜を標榜する自治体が集い、交流を深め、情報の交換を行いながら桜を通じて自治体の活性化を図ろう。そしてまた 21 世紀の未来を開く原動力にしよう」、こういうことでサミットが始まったわけです。

以来、昨年までに 11 回と回を重ねて今回 12 回目となりました。いずれのサミットにおきましても、桜に関することでテーマを設定いたしておりました。桜とまちづくりだとか、桜と観光だとか、あるいは桜と環境だとか、いろいろとバラエティーに富んだテーマをつくってまいりましたが、今回はさくらの「新発見」「新情報」ということで討議を進めてまいりたいと思います。

討議の進め方ですが、大きくこの「新発見」「新情報」につきまして、三つの切り口でまず発表いただくことにしております。一つはイベントです。今一つがバイオ。そして三つ目が住民参加ということです。最後に総括的に地元の幸手市長さんのほうから「幸せの手でつかむ桜の未来」ということで、ご発表いただくということで進めさせていただこうと思います。

それではさっそくですが討議に入りたいと思います。一番バッターといたしましてイベントを切り口にご発表いただくわけですが、ご発表者は福島県の富岡町で桜の委員会をやっていらっしゃいます、委員長の村井良一さんからご発表いただきます。よろしくお願いします。

【福島県富岡町・村井　良一】　今ご紹介いただきました村井と申します。福島県の富岡町からやってまいりました。「桜文（さくらぶみ）大賞、桜にまつわる思い出の手紙」というイベントを考えたわけですが、なぜこんなことを考えたかという背景についてお話しして、内容に入りたいと思います。

富岡町は、皆さまご承知かと思いますが東京電力の原発立町村でございまして、大変なお金持ちの町ということになっております。私はあまり実感として感じていないのですが、お陰さまでこの 30 年来、出稼ぎもなくなりましたし、立派な体育館、道路、公園等、さまざまな社会資本の整備がなされてきたわけですが、その 30 年間ずっと過ごしてまいりまして、人間としてと言いますか町民として、豊かさのなかで失いつつあるもの、忘れたものがあるのか、ちょっと立ち止まって振り返る時期なのではないかとここ数年来考えておりました。

もう一つは、さっき 4 号線沿いの幸手の素晴らしい桜の光景を目にいたしました。お祭りをやっているようですが、富岡町もご多分にもれず 4 月の半ばに盛大な桜祭りを催すのですが、私もその祭りの一環として地元の牛肉を利用した焼き肉祭りなどを仕掛けておりました。1 週間ぐらいで 500 万以上の売り上げがあるような大変なイベントをやってきたのですが、これもバブルのお陰と言えばお陰なのでしょうか、

見事に失敗いたしまして、5年ぐらい前にやめることになってしまいました。

そのなかでやはり桜を通してまちづくりをもう一度見直してみようじゃないか、自分たちの30年間、何か忘れてきたものを探そうじゃないか、といったことを仲間と話し合ってまいりました。それでやはり議論を尽くすのですが、やはり見渡せば桜しかないのです。それでは桜をキーワードにしていろんなイベントを考えていこうと、平成9年2月に商工会の仲間6名ぐらいで富岡桜の委員会という会を発足させました。何をやろうかと議論していたときに福井県丸岡町の「日本一短い母への手紙」の募集について耳にいたしまして、このイベントを見習おうじゃないかということになったのです。二匹目のドジョウと言われようが、ちょっとおもしろそうだし、桜とその手紙ということをくっつけて公募という形のイベントを考えようと、そんな議論に達したわけです。

要するに私たちは自分たちの町の誇りというか精神的支柱というか、何か自分と町が一体化できるものを求めていたわけですが、ちょうどそういう考えにも合致するのであろうと。それでさっそく丸岡町まで押しかけて、事務局の方にご指導を仰ぎました。手取り足取り教えていただきまして、平成10年から「桜にまつわる思い出の手紙」というタイトルで全国に募集いたしまして、最初の年は3621通の応募がございました。

その3621通という数字が成功かどうかはともかく、多少なりとも手応えを感じました。また新たな年のスタートに、もうちょっと全国に向けてのアピール度を高めるにはどうしたらいいかと、事務局にまた相談しましたところ、やはり全国的に著名な方に審査員になってもらったほうがアピール度が違うであろうというお答えをいただきました。丸岡町の方がたまたまフォークの神様の六文銭の小室等さんと大変懇意にしているということで、これもまた怖いもの知らずで小室さんのところに飛び込んでいきました。そうしたら小室さんが大変イベントの内容に共鳴してくださいまして、村井君、やろうやろうということなりまして、どなたか審査員を紹介してくれるよう頼みましたら、埼玉県出身でもある、吉永みち子さんとか、杉浦日向子さんとか、辛口評論家の佐高信さん。ちょっと表現は悪いのですが、芋づる式に大物の審査員の方が決まって、われわれもちょっとびっくりしたのです。そういう審査員の態勢を整えまして、11年から12年に第2回目の桜文大賞を仕掛けましたところ、全国から4698通の応募がございました。

われわれとしても大変満足のいく成果だと思っています。応募数の多寡ではなく、桜を通して自分たちの足元を見つめる作業というか精神的支柱を探っていくという大前提を忘れずに、これからもこのイベントを仕掛け続けていこうと考えております。

ちなみに今年の桜文大賞の受賞者は埼玉県の川口市の方でした。また偶然なのですが、第1回目の桜文大賞も埼玉県の方でございました。素晴らしい文化を持ったところが埼玉なのであろうと思っております。どうもありがとうございました。

【篠田】　非常に簡潔にお話をいただきました。それでは次にバイオ編ということで、埼玉県の北本市さんからご発表をお願いします。

【埼玉県北本市・加藤　高】　ご紹介をいただきました北本の加藤でございます。北本市の桜には日本の五大桜に数えられております、大正11年に国の天然記念物と指定されました「石戸蒲ザクラ」、市の天然

記念物として指定しております樹齢約 200 年の「高尾エドヒガンザクラ」、そしてソメイヨシノの名称として市民から親しまれております「城ヶ谷堤の桜」など、数多くの桜がございます。

一方、平成 7 年には、本市に転入された方々の故郷から送っていただきました約 11 種類 182 本のさまざまな種類の桜を植栽いたしました高尾サクラ公園等々がございまして、毎年多くの市民の方々に喜ばれているところでございます。そのようなことから平成 9 年度に桜を通して北本市のイメージアップを図ろうということで、市民と行政が一体となって魅力あるまちづくりを進めようと、その指針とするために「北本市イメージアップ推進計画」を策定したところです。

まさにこの推進計画は、市民が感動する桜の国、北本と位置づけたわけです。「感動桜国（おうこく）きたもと」ということでキャッチフレーズを定めまして、その感動桜国は「観せる」部門と「伝える」部門と「創る」部門。この三つの柱に沿ってそれぞれ事業を展開しております。

日本の五大桜に数えられております石戸蒲ザクラは、エドヒガンザクラとヤマザクラの雑種の単独種という位置づけをされておりまして、樹齢約 800 年と言われております。本市の石戸宿の東光寺境内にある蒲の冠者と言われた鎌倉時代の武将、源の頼朝の弟の源範頼にまつわる伝説が数多く残されております。滝沢馬琴がお書きになりました『玄同放言（げんどうほうげん）』にも渡辺崋山の挿絵入りで紹介されている石戸蒲ザクラでございます。しかしながら近年、樹勢の衰えが目立ちまして、市といたしましては後継樹の育成を模索してまいりました。挿し木、あるいは種子、接ぎ木による増殖も検討してきたわけですが、とても純粋の後継樹とならず、雑種になってしまうという欠点がありました。そこでいろいろと考えた結果、石戸蒲ザクラの特徴をそのまま残せる、いわゆるクローン増殖に目をつけたわけです。天然記念物を管理する文化庁の許可をいただいて、埼玉県の林業試験場にその培養を依頼して、同試験場が研究を重ねた結果、1995 年にクローン増殖が成功いたしました。

その増殖の方法ですが、県の林業試験場が開発した組織培養、試験管内で挿し木して芽や根を育てます。そして春先に出た芽と枝を 5 ミリ程度ほどに切り分けて、試験管内で 50 日間培養いたします。そこで成長した枝をさらに切り分けて次の培養に利用します。これを繰り返して行うことで大量生産が可能となったわけです。現在、市の計画としては 2000 本を目標にして、その生産をしています。順調に育てば 21 世紀には試験管で育った蒲ザクラの下で花見が楽しめるのではないかと、市民ともども期待しております。
以上、簡単でございますが、クローン化による蒲ザクラの培養につきまして一端を述べさせていただきました。ありがとうございました。

【篠田】　ありがとうございました。ただいまは感動桜国の国王さんの発表でした。今お二方からイベント編とバイオ編の発表をいただきました。こちらのテーブルに座っていらっしゃる首長の方々から、ご質問、ご意見等、何でもけっこうです。よろしくお願いします。

【奈良県吉野町・森本　芳文】　昨日、吉野を出てまいりました。吉野は桜前線から言えばこちらよりも南のほうにあるわけですが、まだ咲いておりませんでしたので、昨日、本当に素晴らしい桜に地元よりも先に出会いました。本当に楽しかったです。

今のお話で、まずイベントの関係ですが、やはり聞いておりますと、先ほど土屋理事さんもおっしゃっ

ていたように、キーワードと言いますか桜を通じて、歴史と文化を思い起こして地域のまちづくりをしようとなさっている印象を受けます。私どもも吉野山の桜が有名ですが、歴史の違いがあると思います。吉野山の桜は平安時代あたりからそういった景勝地であるという記述が見られるわけです。歴史の違い、また手法の違いがございますが、私たちもやはり吉野地域で歴史と文化に根づいたイベントを今年企画しております。

タイトルを申し上げますと、「役行者ルネッサンス 1300 in 吉野」という名称で行っております。これはどういったことかと言いますと、役行者はあまり有名でないかもしれませんが、約 1300 年の昔、修験道を確立された方で、私どもから言えば最澄さんとか空海さんといった人たちと並ぶ古代のスーパーヒーローではないかと思っているのですが、その方が亡くなりまして今年で 1300 年が経過して、御遠忌に当たる年。御遠忌と言いますのは、一般的に言えば法要ということで 1300 回目の法要の年に当たるわけです。従いまして、この年にこの吉野山一帯、さらに吉野町一帯で各種のイベントを行おうと思っております。役行者さんというのは、吉野の紀伊半島の奥地、大峰山というところなのですが、そこで修行をされて修験道を確立された方ですので、本当に吉野山とは縁が深いものです。イベントの内容につきましては省略いたしますが、その地域に根ざした歴史と文化を桜と併せて地域振興を図りたいといったことを申し上げたかったわけでございます。

【篠田】 ほかの方々はいかがですか。村井さんにお聞きしたいのですが、埼玉県の方が 2 回とも大賞を取られたということですが、手紙の内容を、やはりダサイわけではないというところをここで発表いただいたほうがいいのではないかと思うのです。

【富岡町・村井】 先ほど皆さま方にも配布いたしましたが、せっかくの機会ですから時間を頂戴したいと思います。埼玉県川口市の小山謙二さん、45 歳の会社員の方の大賞作品です。

「ジジイへ」

たぶん天国に居ると思うくそジジイ、俺も酒飲みになってしまったよ。
あんなに「くさくてイヤダ」と言っていたのに今じゃ、あんたと同じで休みの日には朝からチビチビやっているよ。
母ちゃんと仲が悪かったから、あんまり遊んでもらった記憶がないけど、一度だけ妹と三人で裏の山へ行ったことがあったな。
大きな古い山桜の下で、ばあちゃんのこしらえてくれたむすび食って、あんた水筒の酒全部飲んで寝ちゃってさ、桜の花びらに埋もれて起きてくれなかったよな。
妹が泣いて、あんたの目を指で開けたんだ。そしたら怒って、いきなり俺の頭をたたいたの、なんでだよ。
忘れたかい。
俺は今でも桜の花びらを見るとあのときの光景を思い出すぜ。

こういう内容です。「じじいへ」というちょっと偽悪的な手法を使った文章なのですが、私の大好きなフレーズは、「妹が泣いてあんたの目を指で開けたんだ」と。たぶんこの妹さんはおじいちゃんが死んじゃったんじゃないかと思って、それで怖いというか戸惑って「おじいちゃん、どうしたの」ということで目を開けようとするんですよね。そこに、ちょっとオーバーに言えば死に対する畏怖感みたいなものがあって、偽悪的な文章のなかに人間性を追求したと言いましょうか、鋭い視点を持った作品なのではないかと思います。

去年の大賞作品も、お父様が交通事故で亡くなられた母子家庭の内容だったのですが、桜さんありがとうといった作品ではなくて、お父さんがいなくても力強く歩き続けていくんだという、交通事故で家族を亡くした悲しい内容とは逆に力強さを感じさせるような作品でした。あくまでも桜がテーマですが、桜が主役ではなくて、人間対人間の営みの強さとか弱さとかせつなさとか、そういうものが響いてくるような作品が大賞になったと私は解釈しております。

【篠田】　ありがとうございました。先ほどの土屋桃子さんのお話につながるような、そういう観点から作品を選んでいらっしゃるなと思いました。さっきの北本市長さんのバイオでカバザクラをおつくりになっているという話なのですが、根尾の淡墨桜が 1400 年ないし 1500 年という長い歴史を誇っているということで、やはり根尾村さんも同じようにクローンで桜を育てるというようなことも大変良いアイデアではないかと思うのですが、根尾さんのほうはこの点についていかがでしょうか。

【岐阜県根尾村・山田　良雄】　私のほうはまだバイオまではいっていないのですが、現在は種子を拾ってそれを発芽させてという状況です。

【篠田】　会場の皆さんで意見のある方はいらっしゃいませんか。

【会場】　私は杉戸町に 18 年間おりまして、いま杉戸高野台という隣の町に住んでおります。私の出身は鹿児島ですが、叔母が土地を持っておりまして、どうしようかと悩んだときに、桜を植えたらいいのではないかと申しました。その叔母は神戸におりましたが、鹿児島に建てた広大なお寺の周りに土地がまだ残っておりましたので、そこを鹿児島の素晴らしい観光地にしたらどうかということを申しましたのですが、やはり鹿児島は寒さがちょっと足りないのです。桜を育てるには寒さが必要だとそのときに聞いたのです。それでとても残念に思ったのですが、私も桜が大好きで、鬼石の桜も 3 回見に行きました。毎年紅葉と桜と一緒に咲いたおとぎ話のような風景の中に自分が本当に埋没しそうな、幼い日に帰ったような思いがいたしました。

そしてこちらにいる友人は幸手の方で奥田さんとおっしゃいますが、桜を見る京都の旅に一昨年出まして、吉野桜を見に行きました。とても寒い年で、一番高いツアーを組んだのできっと咲いていると思ったのですが間にあわなくて、ただお寺だけを回って来ました。奥田さんがいいじゃないと慰めてくださいまして、最後のドライブインで 3 本ぐらい桜が咲いていて、またいつか行きたいなと思っているのです。

私も年甲斐もなく、女の人は桜が好きなのかなと思いまして、桜、桜と言っておりましたら、今度 22 日

に結婚する娘の婚約者が桜田君と申します。家紋は何かと聞きましたら、皆さん何だとお思いになりますでしょうか。桜なんです。向こうのお家に聞きましたら桜に丸紋で、それを縫い紋に染めて嫁がせることになりました。私も桜の留め袖と桜の帯を準備しまして、高価なものではありませんけれども、今度 22 日に初めてその着物を来るのです。私は 5 人子どもがおりますけれども、娘のときに留め袖を下ろしますので、今とても幸せな気持ちでおります。そして高遠の桜とか東北の桜とか、角館の桜とか、夫婦やお友達で、いつか時間にゆとりができましたら、そういう幸せな旅に出たいな、この素晴らしい日本に生まれてよかったなと思っております。

長くなりましたが、『自らの伝言』という素敵な本を見ました。今日、このさくらサミットに自分も隣の町からではありますけれども参加させていただいて、主催者の方や皆さまに本当に感謝しております。ありがとうございました。

【篠田】 ありがとうございます。前に北区でサミットを行ったときも、会場にたまたまさくらサミットがあるというので来たという女性の方がいらっしゃいました。全国の桜を追いかけているそうで、やはりそういうファンの方が多いなと思いました。

【会場】 私は春日部市から来ている者です。春日部市は藤の花で有名なのですが、5 月の連休のときが満開です。土屋知事の話を聞きまして、入学式だとか入社式というのは人生の節目、人生のスタートだなと思っております。権現堂の桜とか大宮公園の桜を見ますと、けっこう老木が多くなってきたのかなと。新しい桜の木と交代していくときに、交代をうまくやっていただいて、いつまでも桜の花で満開にして、私たちを楽しませていただきたいなと思います。それぞれの市町村で皆さんご苦労があると思いますが、円滑に時代が移り変わっていければありがたいと思います。今後そういうことを期待して皆さんにお願いしたいと思います。

【篠田】 幸手市長さん、せっかくのご質問ですので、円滑にいきますかどうか。よろしくお願いします。

【埼玉県幸手市・増田　実】 幸手市は 50 年以上の木がとても多いわけです。ですからそれだけに桜がきれいなのですが、やはり後世に伝えていくためには今言ったように新しい木も植えていかなければいけないと思うのです。しかしながら今の場所がベストですから、その木を切って新しい木を植えることはとても難しいわけで、それが一番頭の痛いところだと思っています。しかしながら桜というのは私たちの財産ではなくて、今までの方が培ってきた財産ですので、後世に伝えるためにも常に新しい木を植えるようにしていきたいと思っています。

【熊本県水上村・成尾　政紀】 熊本県水上村です。今日、九州から長崎、熊本、宮崎の 3 県がサミットに来ております。九州でも大変きれいな桜が咲いております。

そして今年は 1 週間ほど遅れましたが、もう桜は散っている状態です。九州にもきれいな桜がたくさん咲いておりますので、いつか足を伸ばしていただければと思います。ソメイヨシノも大変きれいに咲いております。私たちのところは幸手と一緒で 40 数年たっており、名木ではございませんが、今まで 40 年の歴史を持っていますので、どうにかして育てていこうということで、いま年間 1000 万円をかけて肥料をやるようにいたしました。3 年間ほど続けましたところ、1 万本の桜があるのですが、全部ソメイヨシノです。ピンクがきれいな桜が咲くようになりました。

【宮城県柴田町・大内　孝】　宮城県の柴田町です。柴田町は桜も有名ですが、平成 10 年に「人と人、男(ひと)と女(ひと)が共に生きる」ということで総理府の事業指定を受けた「男女共同参画都市宣言」を行いました。それで職場内も町内、特に小学校については男女混合名簿の導入を行うなど、男女が共同参画して築くような手法を取り入れてまちづくりに生かしております。

どんなイベントをやりましても、だいたい会場にいらっしゃるのは女性の方が多いです。その女性の方を対象にした桜祭りを今度やったらどうだろうという話もありました。でもうちの町長が基本的に考えるのは、まずは地元の人というか町民が最初に楽しめる場所をつくりなさい、そして外発的なイベントというものは町民が楽しんだ後に考えるものであって、その後でいいと。特にイベントはすぐに飽きられると。飽きられれば次から次とイタチごっこでやらなければいけないということで、そのへんの考え方も最近変えております。全国津々浦々、桜の有名な場所はあるのでしょうが、純粋な気持ちでたぶんつくったのだと思うのです。植えればいいとか、育てればいいとかというのではなくて、ここに植えたらきれいだろうなという感じで植えて、それを 10 年、20 年、30 年。うちの桜はもう 77 年ぐらいになっていますが、そういうふうにして人が育てていったところがうちの町を含めて有名な場所になっていくのだと思います。おそらく幸手市さんもそういう気持ちがあって植えられているのだろうと思います。ただ、植え方にちょっと苦言を呈させていただければ、密植状態なので、先ほど街路と公園を見てちょっと心配したのですが、後で間引きか移植するのかなということも考えてしまいました。

きっと素晴らしい桜になると思いますが、うちの町長が言うように、まず町民、市民。桜というのは魔性の力があります。皆が、全国すべての人が同じ時期に浮かれ気分になります。麻薬的な効果があります。それを享受できるような場所にしていくようにうちの町は頑張っていますし、皆さんの町もそういう桜の名所にしていっていただければいいなと思います。

【篠田】　町長さんでも言えないぐらいの迫力ある発言でございました。第 1、第 2 の分野についてはだいたいこれでよろしいでしょうか。先ほどバイオの話が北本市長さんからありましたが、たまたま昨日、朝日新聞に、有名な桜の名所である京都の醍醐寺の桜もやはりクローンで増やしているということが書いてありまして、だいたい名桜と言われる桜については、そういう手法がこれから出てくるのかなという感じがいたしました。それでは今の柴田町からのお話に関連しますが、「新発見」「新情報」発表の 3 番目として、住民参加ということで茨城県日立市の市長さんからご発表をお願いします。

【茨城県日立市・樫村　千秋】　それでは日立市のことをご紹介させていただきます。日立市は現在、市内に約 1 万 4000 本の桜がございまして、今ちょうど第 39 回のさくらまつりが実施されております。特に市のメインストリートであります「平和通り」の 115 本のソメイヨシノザクラは大変見応えのあるところでございます。

ご承知のように日立市は日立製作所の発祥の地でありますが、その前に銅鉱山がございました。日立鉱山と申しまして、ここでの溶鉱作業による煙害、いわゆる環境問題が明治時代に非常に問題になりまして、それを環境面から改善しようということで、当時の日立鉱山の経営者がオオシマザクラという桜を煙害に強いということで植えました。これが日立市の桜を植えるもとになっております。

さらに戦後、戦災復興のためにさまざまな道路を整備したわけですが、メインストリートである「平和通り」もその一つで、そこに植えた桜が、ちょうどいま成木になって見頃になっているわけです。さらに平成 3 年に日立の後背地にあります山間部で大きな火災がございました。その火災の跡地の自然環境を回復させるための一つの方法として、ヤマザクラの植栽を行ったところです。この植栽にあたりましては、市民の大きな支援をいただきました。日立市の特徴としては、生涯学習・福祉・文化・環境問題など様々な分野で市民運動が大変活発であります。特に市民と企業、あるいは行政との連携が広く行われています。そういった関係で、その環境問題のなかに桜が位置づけられているわけです。

平成 9 年には、「日立市さくらのまちづくり市民会議」なるものが起こされました。そこでたくさんの提言がまとめられ、さくらのまちづくり提言書が表に出されたところです。また、さくらのまちづくりを推進している市民団体であります花樹の会。花と樹の会ですが、それから、さくらのまちづくりを進める市民の会を中心に、八つの市民団体がその提言内容の実現に向けてさまざまな事業を展開しているところです。

主として取り組んでおりますものは、桜を守り育てるということに関してですが、市民団体を中心としたボランティア活動、あるいは先ほど申しましたメインストリートであります平和通りや、かみね公園の桜の実態調査。先ほど土屋理事から話がありました天狗巣病の除去活動など、既存木の保護、育成を一生懸命やっているところです。

日立市の桜もソメイヨシノが中心で、樹齢が 40 年から 50 年を経過しようとしておりますので、維持、管理のために大変苦慮しているところです。そういったなかで市民あるいは市民団体の取り組んでおります事業に、まず基金的なもので浄財を募っているものがあります。これが、「日立市さくら基金」です。このさくら基金を原資としていろんな事業に取り組んでおります。また、桜の天狗巣病の除去活動には、地元の東京電力の日立営業所の支援など企業の協力もいただいて実施しております。

昨年は日立市が施行 60 年という節目の年でもありましたのでいくつか桜にこだわった取り組みをいたしました。

一つは、小学校が 23 ほどあるのですが、学区ごとにコミュニティ活動の組織ができておりますので、それぞれの地域で 1 ヵ所、「私の好きな地域のさくら」を市民投票によって選定して、その結果やそこの桜の現状などを盛り込んだ情報誌をつくり全戸に配布するなどの活動をいたしました。

二つ目は、桜の開花期以外の桜の楽しみ方について、市民とともに考えているところですが、昨年の 11 月に「なんでもさくら展」という展示会を開催しました。絵画や写真、あるいは押し花、木版画などの作

品や桜をテーマとした多くの作文が市民から寄せられました。また行政以外の取り組みとしては、日立のさくらまつりが先ほど 39 回目を開催していると申しましたが、併せて日立商工会議所において市民の観光ボランティアの協力を得て、「記念館とさくらめぐりバスツアー」を企画しまして、ちょうど昨日、今日とこれらが動いているところです。日立には日立製作所の発祥記念として小平記念館があります。それから日立鉱山の記念館として日鉱記念館があります。これらはいずれも近代産業の遺産を展示してあるところですが、これらと桜の名所を周るバスツアーをボランティアの協力で運営しています。

このように桜を媒介として市民のボランティア活動、それから生涯学習とをうまくミックスして活動が進められていると思います。このようなことから、今後とも市民参加による桜を媒体とした事業を企業、住民、行政ともどもやっていきたいと思っております。

先ほどもちょっと話題になりましたが、日立の桜も 50 年近くたっておりまして、大変痛みが激しくなってきております。特に市街地での桜の維持は大変難しいようで、これを今後とも長く維持するためにどうするかということですが、今のところはボランティアの皆さんの熱烈な支援によって花が毎年咲いているわけですが、もう限界かなという意見もございますので、今後これらについて、もっと何か良い方法があったらと思っております。先ほど 3 年ほど肥料をやるという話もありましたが、そういったことも参考にしつつボランティアの皆さんとともに日立の桜を絶やさないようにしてまいりたいと思っております。

【篠田】　ありがとうございました。それでは引き続き、「新発見」「新情報」の発表の 4 番目で、幸手市長さんから「幸せの手でつかむ桜の未来」についてご発表をお願いします。

【幸手市・増田】　それでは幸手市から報告をさせていただきます。私が市長に就任いたしまして 8 年目を迎えますが、市長に就任当初より、「誇れるまち、有名なまち、市民誰もが住んで良かったと思える街づくり」の実現に向けて市政に取り組んでまいりました。その市政の一環として「さくらのまち　幸手」をスローガンに掲げ、平成 6 年度から桜 10 万本植栽運動を展開してまいりました。この運動の趣旨は桜のなかに街があることをイメージし、市内の至るところで桜を楽しんでいただけるようにしていこうという運動でありまして、公共施設や学校、街路等の植栽事業に力を入れているところでございます。

また四季を通して桜を楽しめるように、秋にも開花する十月桜の植栽にも取り組んでいます。この桜 10 万本運動は、植栽事業のほかに婚姻届や出生届を市役所に提出された方のお祝いや市の事業の記念品として、鉢植えにした桜をプレゼントする鉢植え桜配布事業や、個人が所有する立派な桜の保存に市が援助する桜保存樹木制度、学校内に桜を植樹し、その桜の育成を児童、生徒が観察する桜育成指定校事業などを実施し、桜によるまちづくりを進めているところです。このような桜による事業の展開の背景には、幸手市には町のシンボルであり、また桜の名所として有名な権現堂桜堤がありまして、この桜堤を全国にＰＲするとともに、ぜひ桜によるまちづくりを進めていきたいとの考えからこの運動を実施しているところでございます。

この権現堂桜堤には、1 キロにわたり約 1000 本のソメイヨシノが植樹され、桜の期間中は多くの観光客で賑わっております。この堤は約 400 年前に築かれたもので、江戸期を通じて江戸を水害より守ってきました。大正 9 年には初めてこの堤に桜が植栽されましたが、戦中から戦後にかけて薪として使用するため

伐採されてしまいました。その後、昭和 24 年に再び桜の植栽が進められ現在の姿となっているところです。また、堤周辺には昭和 63 年から地元農家の協力によりまして菜の花が作付けされ、現在は県にも協力していただきまして、桜周辺の約 5.4 ヘクタールに菜の花が作付けされ、さくらまつり期間中には桜のピンクと菜の花の黄色とのコントラストが見事であります。

年々、観光客も増加しておりますが、その反面、桜の保護についてはなかなか十分な対応ができないことも事実です。このようななか、桜堤の桜の木の樹齢や育成状況について、平成 9 年度、平成 10 年度の 2 ヵ年にかけて実態調査を実施いたしました。その結果、50 年以上の樹齢を持つ桜が約 200 本ございまして、そのうち 50 本程度の桜の生育が不良で、回復させるには改良が必要であるとの報告を受けました。その結果を踏まえて、今後の保護対策として、本年度から桜堤の桜の保護作業を実施するための予算を計上し、町のシンボルである桜堤の桜を後世に残していきたいと考えております。

また、この桜を後世に残そうとする考えは行政だけではありません。年間を通してこの桜堤をボランティアで管理している権現堂桜堤保存会という団体があります。この会は今日も会場にみえておりますが、現在の保存会の会長、また今回の幸手さくらまつり実行委員長の二人が、北海道静内町で行われました第 8 回さくらサミットに出席したことを機に、ぜひ権現堂桜堤を守っていきたいとの思いから、権現堂桜堤に思いを寄せる市民に参加を呼びかけ平成 8 年度に発足しまして、現在、会員数 64 名で組織しているボランティア団体です。

この団体の主な活動としては、毎年実施していますクリーン作戦や、堤の記念箇所の補修。また桜の生育に影響を及ぼす植物の除去等のほか、季節によってアジサイやヒマワリの植栽等も実施しております。また今年は先ほど述べましたが、堤周辺に作付けされた菜の花のパトロールを、2 月 20 日からさくらまつりが開催される前日の 3 月 25 日までの期間に毎日実施していただきました。この菜の花の管理につきましては、毎年芽が出るころには菜の花を摘まないよう看板等で案内をしておりますが、残念ながら一部の人たちによって菜の花畑が荒らされ、事務局としてもその対策に苦慮しておりました。しかし、保存会のメンバーに交代でパトロールをしていただきまして、その問題に対応することができました。今後も桜堤の保護活動には、ぜひ絶大なるご協力をしていただきたいと願っている次第です。

最後に、権現堂の桜の情報発信についてお話をいたします。幸手市のホームページにはいろいろな市の情報とともにさくらサミットに関することや、桜 10 万本運動、権現堂桜堤の開花状況等、桜に関する情報を載せております。この情報の作成には、ホームページの作成等に非常に多くの実績を持っております地元の県立幸手高等学校のマルチメディア部にお願いをいたしまして、提供した資料を基にマルチメディア部で作成し、市のホームページに載せております。

またマルチメディア部の活動として、桜の開花時期には毎日桜堤に足を運び、桜の開花状況をデジタルカメラに収め、桜の状況を全国に発信しておりまして、アクセスすればその日の桜の状況を瞬時に確認することができるようになっております。このように、幸手市では「さくらのまち　幸手」をスローガンに掲げまして、多くの市民の皆さまにご理解とご協力をいただきながら、また今回の第 12 回「さくらサミット in 幸手」を起爆剤として桜をテーマとしたまちづくりをさらに積極的に進めることによりまして、今後のまちの活性化や地域の振興にぜひつなげていきたいと考えております。

【篠田】　ありがとうございました。実は私も今朝出てくるときに、権現堂桜堤のホームページを開きました。高校生の作品とは思えないぐらいの素晴らしいホームページでございました。さて、ただいまお二方に発表いただいたわけですが、まずお座りの 18 人の方々からご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

＜コーディネーター　篠田伸夫＞

【秋田県角館町・高橋　雄七】　秋田県の角館町です。先ほどからいろいろと保存と管理のことが出ていますが、当町の桧木内川堤の桜は今の天皇陛下がお生まれになったときに植えたもので、樹齢は 70 歳近くになっています。昨年度、文化庁と県の指導で保存管理計画を策定しました。インターネットでも発信しています。今月の 22 日から 23 日と 2 日間、「角館のサクラを守り育てる」というテーマで、全国さくらシンポジウムを開くことにしております。京都の佐野藤右衛門さんからも何度か来ていただいていろいろご意見を聞いたのですが、2 キロの花のトンネルの桜はソメイヨシノであるのでいずれ枯れるものだから思い切って 500 メートルぐらいずつ切って、3 年ぐらい寝かせて新しいものを植えたらどうだと言うのです。その前に私の首がなくなりますと言ったら、そのぐらいの度胸がないと駄目だと言われました。

そのときに気がついたのは、やっている管理がどうもうまくなかった。大事にしようということで根のところに土を盛って一生懸命やっていたのです。そうしたら桜というのは根に土を盛ると苦しくなるというのです。桜の根というのは地表面近くに張っていくものだと。そういうふうにいろいろ素人でわからないことをすぐ玄人はわかるのです。そういう技術もうちのほうでは蓄積していますので、今年情報センターが新しくできまして情報を発信していますが、疑問のある方は文化財課の樹木医である黒坂にいろいろ聞いていただければありがたいと思います。

北区の区長さんがおられまして思い出しましたが、一昨年北区でサミットをやったときに、小渕さんが突然飛鳥山から桜を見に来ていて、サミットにみえられまして、私もサミットというのに参加してみたいものだとおっしゃっていたのをいま思い出しました。

【篠田】　本当にそういう思い出話がございました。黒坂さん、いらっしゃいますか。ちょっとご起立願います。角館町の職員の方ですが、樹木医でもありまして、桜のことについてのいろんな悩みは、黒坂さんに相談すると解決できることが多いようですので、一言ご紹介申し上げました。

【長野県高遠町・山川　隆】　長野県の高遠町でございます。イベント情報、あるいはバイオ編、ただいまの住民参加。また、これからの桜の未来ということでお話を承ったわけです。ちょっと会場のお客さまにお聞きしたいのですが、私ども高遠町の桜を今日この幸手のサミット以前に知っていたという方は、手を上げていただきたいと思います。ありがとうございました。これだけの方に知っていただいているということで安心いたしました。

実は私どもの町は城下町で、山城でありますが、廃藩のときに建物を全部取り壊してしまいまして、そ

の城跡へ明治 8 年から桜を植え始めました。当時一番先に植えた桜はもう百数十年たっているわけです。先ほどもどなたかが、とにかく地元の者が楽しむことが大事だと言われましたが、やはり地域の皆さんが楽しむ桜の公園だったわけです。私どもの町からは、城下町でありますので、志を大きく持っていわゆる首都圏へ廃藩以来出た方が大勢おります。桜がだんだん成長してくると、そういった方々が、とにかく高遠のふるさとの桜は非常にきれいだということで、昭和 8 年から主に関東から観桜団を結団して町へ訪れるようになりました。それがいわゆる高遠町以外から、県外から訪れた第一のお客さまです。しかもそのお客さまは町の出身者であった。そして輪に輪が広がって、今度は知り合いの方たちも加わったわけです。

私どもの高遠は、ちょうど地図でご覧いただくとわかりますように、本州のほぼ中央です。諏訪湖からちょっと南に約 20 キロぐらい行ったところに位置しています。そんなことで、それ以来非常に有名になったわけです。しかもその皆さんが高遠に行っても休むところがないということで、昭和 11 年に休憩所をつくっていただきました。これも出身者がつくってくださったわけです。そんなことで桜が県外に対して非常に有名になったわけですが、不幸にして第二次世界大戦のときに本丸と南郭という郭を除いたところに植えてありました桜を全部切ってしまいました。なぜ切ったかと申しますと食料増産のためなのです。桜を切って畑にしたわけです。そんな不幸なこともありましたが、終戦直後の昭和 23 年に地域の青年団の皆さんが土手の桜から出たヒコバエを植えて戦後 50 数年たって、素晴らしい桜になっています。

桜というのは割合と寿命が短いようですが、5、60 年目に非常に素晴らしい花を付けます。同時に先ほども土屋理事のお話にありましたが、桜は非常に根が浅いために多くのお客さまがまいりますと踏まれてしまいます。そうすると踏圧でもって呼吸ができなくなります。昭和 50 年代には非常に桜が弱ってしまいまして、いろいろと管理の方法を志したわけですが、なかなかお金がかかります。私どもの町の財政基盤が小さいものですから、桜を維持管理して、よそから来ていただく方に見ていただくだけで、税金を使ったらえらいことになるということで、約 7 ヘクタールのこの公園を、期間中だけ有料にいたしました。大人の方に 400 円の入園料をいただいています。しかしいただくだけではいけませんので、ほかにも関連する施設がございます。博物館だとか、あるいはこの博物館には絵島・生島の絵島囲み屋敷も併設されていますし、藩の学問所、新徳館という建物もご覧いただくようになっています。そんなようなことも併せて見れるようにした共通券、400 円をいただいて維持管理に当てているということです。

そのなかで種の保存ということも考えてまいりました。私どもは挿し木でやっております。また今の公園がそんな状態ですので、もし今ある公園の桜が、生き物ですから駄目になっては困るということで、平成元年に実は私どもがこのさくらサミットの第 2 回をやったわけですが、その折にも国際さくらシンポジウム等々を実施するなかで、町民の非常に多くの関心を呼びまして、町民総参加による新たな桜の園をつくってまいりました。

それに取りかかりましたのが平成 2 年からですが、約 20 数団体ごとに 11 ヘクタールぐらいの新しい地を選定いたしまして、そこに植えていただいています。その皆さんにその後の維持管理、草刈りなどを全部やっていただいています。そこにはタカトオコヒガンのほかに、サトザクラと 140 種類ほどの全国の桜を集めて植栽しています。ですから今日ここにおいでの自治体の皆さんのところの桜もかなり植わっております。そういうことで、種の保存あるいはまたこれからの第 2 の桜の園を住民参加に基づいてやっております。

先ほど幸手の市長さんがおっしゃいました情報発信の分野に関しては、私どものホームページを開いていただきますとご覧いただけますが、私どもの桜は今年も約 1 週間ほど遅れていまして、まだ堅いつぼみです。毎日毎日デジタルカメラで撮っているので、ホームページにアクセスすると出ますので、ぜひ見ていただいて、おいでいただけたらと思います。

先ほどお隣の町のご婦人の方が高遠と角館と吉野へ行きたいと言われました。実は信濃毎日新聞社という長野県内の新聞社が「さくらさくら高遠」という冊子を発売いたしました。これは信濃毎日新聞社が、「1 枚の写真から始まる美しき信州への旅」ということで、訪ねてみたい美しい信州シリーズ、その第 1 号が「さくらさくら高遠」という本でした。以下、霧ヶ峰高原、軽井沢、志賀高原、上高地と 7 回にわたって発売されます。その第 1 巻でございます。せっかく私どもの土地の名前を言っていただきましたので、これを先ほどの女性にプレゼントいたします。後ほどぜひ私の所までおいでいただきたいと思います。

【篠田】 先ほど幸手市長さんから平成 8 年に保存会が発足したというご発言をいただきましたが、保存会の会長さん、いらっしゃいますか。せっかくの機会ですのでご発言をお願いします。

【幸手市権現堂桜堤保存会・川又】 保存会の会長をしております川又と申します。平成 8 年 12 月に北海道へ行った時に、桜だけではなく、トータルで堤を保護していこう、手入れしていこうと思いまして保存会をつくりました。毎月 1 回、会員総出で朝 9 時からクリーン作戦をやります。特に 10 月あたりまでは、すごいごみが出るのです。軽トラック 3 台ぐらい出るのです。これから桜が終わって葉桜になって、その後ずっと皆さんがおみえになりますので、本当にごみだらけです。それと桜堤には堤ですから危険な箇所がいっぱいあります。それで一昨年から、栃木県の林のなかに電柱がだいぶありましたので、それをいただいてきて、お年寄りの方とか若い人、小さいお子さんが大勢みえても、安全なようにと何箇所かに階段をつくりました。ボランティアでとにかく汗をかいて会員でつくりました。

できて 3 年間は、桜が終わると幸手は何もないということでヒマワリの種を約 1 万本まいたのです。ところが労力の割にはいい花が咲いてくれない。今年からそれをやめて先ほど市長さんからお話があったアジサイを植えることにしました。これは自分の家、あるいは知り合いの家から、大きい、小さいはありますが約 500 本植えて、夏は水やり、草むしりなどをします。去年、いい花が咲いたのですが、朝にはなくなっているのです。われわれがせっかく育てたものが盗まれてしまうのです。そういう人々がいるのです。

先ほど市長さんからお話があった菜の花は、毎年お惣菜なんかに持って行かれるのです。一応、菜の花を摘まないでくれと書いてはあるのですが、注意書きのないところから、「ここに書いてないから」と持って行くのです。私に言わせれば、八百屋さんに行けば安く買えるのではないかと思うのです。今年、特にサミットということで、保存会が毎朝 7 時から二人ずつ交代でパトロールしています。もちろん 1 日張りついてはいられませんが、その間にまた取られるのです。取る人はだいたいご夫婦です。女性同

士はあまり取らないのです。ほとんどがご夫婦の方がビニールを用意して持っていくのです。たまたまあったから持って行くのではなく、もう用意してくるのです。あれがなければもう少し今年は立派な菜の花が咲いたのではないかと思います。

【篠田】　ありがとうございました。

【会場】　日立市のボランティアグループの仲間 4 人で来ております。先ほどうちの市長から住民参加ということで紹介がありましたが、何か参考になればと思いまして、われわれの活動の一端を申し上げたいと思います。われわれは平成 5 年に桜を愛する人間で集まって花樹の会という会を結成いたしました。日立が日本一の桜都市になるように頑張ろうということで発足したわけです。桜の植栽、保護、管理を自分たちの資金で、自分たちの体で実行しようということでやっております。

日立市にどのぐらいの桜があって、桜の状態はどうなのかということを調べるために、平成 7 年にわれわれ会員がそれぞれ分担して各区ごとに桜の調査をいたしました。それから企業の中には入れないので、企業の担当者にお願いをして、桜の１本、１本の実態を調べたわけです。

幹回りから高さ、樹勢、いろんな病気がないかということで、一番そのなかで大変だと思ったのは天狗巣病です。1 万 4000 本の桜が市街地にあることを把握しまして、その大部分がソメイヨシノなのですが、6 割が天狗巣病にかかっているということで愕然としたわけです。マスコミも取り上げてくださいまして、桜の実態についてはだいぶ市民にも知っていただいたのですが、このままにしておいたのではどうしようもない、われわれの手でできることはないかと考え、東京電力の協力をいただいて、毎年 1 ヵ所、私たちの会員と、学校中心ですのでＰＴＡや地域の方々と、天狗巣病の切除運動を始めたわけです。

1 年間に切除できるのは 1 ヶ所ぐらいですから、遅々として進まなかったわけですが、一昨年から市民の会ができまして市の予算も付きましたため、だいぶ広がってきました。今年一番助かったのは、緊急雇用対策事業によりまして、市が天狗巣病切除事業を対象事業として補助申請をしましたら、採択されまして、民間業者に委託し、あとハローワークから失業者の方をお願いして、小中学校 23 ヵ所を 30 日かけて徹底的に天狗巣病の切除をいたしました。これでだいぶ日立の桜も天狗巣病から守られたなと思いますが、まだまだ残りは多くございます。

これからも天狗巣病をどう切除していくかというのは保護、管理の上で非常に大事なことだと痛感しているところです。これからも行政と協力し合って、ボランティア団体としてできる範囲で、天狗巣病の切除や保護、管理に努めたいと思っております。

【長崎県大村市・島　信行】　長崎県の大村市からまいりました。うちの市は「花と歴史のまち」というキャッチフレーズを敷いております。ちょうど長崎空港のある町です。先ほど来、幸手市長、日立市長のお話を聞いておりまして、大村市の桜に対する思い入れと言いましょうか、こだわりというのがまだまだ足りないなと感じています。実は先ほど保存会の方がおっしゃったのですが、桜が過ぎたら何にするかということに関してはいろんな問題がございます。私達の方では桜の後にはツツジ、ツツジの後にはハナショウブ、ハナショウブの後にはアジサイということで、同じ公園のなかにツツジも 10 万本、アジサイも

10 万本、あるいはハナショウブが 30 万本ということで、西日本一の景観を誇るハナショウブの町にしようと一生懸命やっているわけです。

そうした中で、だんだん桜に対する熱意が分散されると言いましょうか、薄くなっているような感じがしているのです。昨日こちらに入って、今日一日過ごさせていただいている中で桜アイスだとかが名物として販売されているし、ここは桜ホールという名前で、その緞帳が桜だと。うちにもちょうどさくらホールというのがあるのですが、うちの緞帳はちなみにハナショウブが描いてあります。そういうことで、今このお話を聞いていて、やはりこだわりを感じました。幸手市長が 10 万本植栽運動とか、いろいろやっておられるということで、私もこのサミットを通じて、桜に対するウェイト付け、重み付けをより一層やらなければいけないと感じている次第です。各自治体の今後のご健闘をお祈りしたいと思っております。どうもありがとうございました。

【島根県木次町・小村　伸治】　島根県の木次町から参加させていただきました。今朝、飛行機でこちらにまいりましたが、木次町は昨日と今日が満開ということで、電話をしてみますと、大変多くのお客さんが車でどんどん入ってくるということで、たいへん喜んでいる状況です。

先ほどから住民参加というお話がございますが、木次町がこの桜を本格的に植え始めたのが昭和 2 年ごろからで、大正明治の頃植えられた木もあったわけですが、多くの木は現在、だいたい樹齢が 70 年から 80 年ぐらいたっております。そうすると先ほどからもお話に出ておりますように、天寿をまっとうする桜が何本か出てくる状況になっておりまして、跡継ぎをつくって移植をして、また育てている状況です。

木次町が桜のまちづくりに取り組みましてから 10 年経ちまして、さらにこれからまた進めていこうということで町民総参加の創作劇「ひと花の吹雪」を平成 10 年に上演し、昨年の 3 月に東京で公演を行ったところです。田舎の町で、町民が演劇をつくり、それを東京で上演するということについては非常に心配もしていたわけですが、大変な盛況でございました。この演劇は、桜並木の歴史を題材に、その時代時代での人間と桜との関係を通し、桜を愛護していく心を養ってもらいたいという願いから町民有志が中心となり上演したものです。

東京の公演につきましては、今日も土屋先生の講演がございましたが、日本さくらの会のご支援もいただいたり、また島根県、あるいは郷土出身の皆さまの大変な協力をいただきまして、東京では都合 3 回の公演を昨年行わせていただきました。会場は超満員で、立ち見席も出るような状況で、音楽に合わせて手拍子を打っていただいたり、あるいはまた悲しい場面ではすすり泣きが出るなどして、舞台と会場とが一体となった創作劇をさせていただいたところでございます。

これに続く企画としては、全国的に知られております出雲神話のヤマタノオロチの地域ですので、今後このヤマタノオロチの伝説と桜を結び付けた演劇ができないだろうかということを現在検討しているところです。桜をただ単なる花見ということではなくて、文化的な事業を取り入れて総合的な角度から町の大切な宝である桜を守っていこうという状況です。そうした気持ちで桜のまちづくりに取り組んでいます。

【宮崎県北郷町・植野　章一】　宮崎県の北郷町でございます。宮崎市から 44、5 分、日南市から 10 分ぐらいの鵜戸神宮の近くの北郷町の植野でございます。昨年、北郷町でさくらサミットをしていただきまし

て、本当に皆さまありがとうございました。実はいろいろお話を聞いておりますと、考え方はだいたい似たようなものですが、せっかくやりましたさくらサミット、この後をどうするかということが私は大事ではなかろうかと思っております。

やはりいま一番問題になっております小中学生の問題。この人たちにどういうふうにしたら情操教育ができるかということを考えまして、昨年やりましたさくらサミットを記念に、今年も桜祭りのなかに情操教育のような場所を設け、子どもの教育のためにそういう環境をつくってきました。そしていろんなものを観察させながら、心の浄化を図っていきたいと考えております。そのためには子どもたちが好むような四季折々、そして自分たちが行って遊ぶような場を、さくらサミットを記念して、子どもたちの観察の場、調査の場として今後も引き続きつくっていきたいと思います。

【篠田】　まだまだ発言したい方がいらっしゃると思いますが、そろそろ総括を私のほうでやらせていただいて討議は終わらせていただきたいと思います。今日は第 12 回のサミットでございました。地元のほうではいろいろとご協力いただきましたが、これはもう人間の力ではどうしようもないわけですが、今日はドンピシャリと権現堂桜堤の桜が満開ということで、さくらサミットをやっております 18 人の首長さん方、非常に良かったと思っていらっしゃると思います。

今日最初に基調講演で土屋桃子さんから大変感動的なお話を伺いました。桜ということについて考える場合に、やはり心の問題が一番大きいのではないかということだったと、かいつまんで言えば思ったわけです。

このさくらサミットは回を重ねて 12 回になるわけですが、過去のさくらサミットではどういうことが議論されていたかを見てみますと、桜によるまちづくりということが終始あるわけです。その場合に、なぜ桜なのかということが、第 1 回、第 2 回、第 3 回のころは議論されておりました。結局、桜というのは、皆さん異口同音におっしゃるのは、住民の心の統合のきっかけ、あるいは住民の心の支え、郷土愛、あるいは桜を植えるという行為を通じてまちに愛着がわいてくる、そういう力を持っているということ。あるいは単に植えるだけではなくて、いかに育てていくかというところに教育があるのではないか、先ほど北郷の町長さんがおっしゃいましたが、その情操教育につながるのではないかということ。

あるいは先ほど、桜はわずか 365 日のうちの 10 日ぐらい咲いているだけだという話がありましたが、1 年に 1 度だけ人間の心が 1 つのところに向く、これが桜の強みではないかということ。そしてまた自然に学び、美しさを讃えるところからまちづくりが始まるのだということです。いろいろな花がある中で、桜が持っている特性について、第 1 回、第 2 回、第 3 回のころに皆さん議論されて、やはり桜というものの特性を生かしたまちおこし、まちづくり、あるいは地域の活性化をやっていきたいということでございました。

12 回にわたりまして、いろいろな議論がなされてきたわけですが、今回の 12 回目に、再び桜によるまちづくり、まちおこしの原点が確認できたような感じがいたしました。今日は会場の皆さんからもたいへん良い発言をいただきました。さらには大変感動的な手紙の朗読もいただいたわけです。今日は 12 回目ということでございましたが、さくらサミットの原点が再確認できた、そんなサミットであったと思います。またこの原点を基に、次回以降、さくらサミットがさらに活発になっていければと思います。以上をもち

まして総括とさせていただきたいと思います。

実はこのさくらサミット、今日は 18 の自治体が参加なさっていますが、ぜひともこのさくらサミットに入りたいという自治体が今日おみえでございます。この会のルールで、18 人の皆さん方の賛同がいただければ、次回から正式な会員になるということになっています。ご紹介いたします。愛知県三好町からお越しの方、前のほうに来ていただいて、三好町の紹介、桜との関わりなどをお話しいただければありがたいと思います。

【愛知県三好町・高見　利春】　愛知県の三好町でございます。場所は名古屋と車のまち豊田市の中間に位置する町です。面積は 32 平方キロ。人口は 4 万 6000 人です。桜との関わりですが、三好町には三好公園があり、愛知用水を導入して、池の周囲に桜を植えて約 40 年になります。ここを中心に桜の園をつくっていきたいということで、今回お仲間入りをさせていただくものであります。どうぞよろしくお願いいたします。

【篠田】　ありがとうございました。ぜひともお仲間入りをしたいという、今のお気持ちが披瀝されました。皆さん方、よろしいでしょうか。

【全員】　（拍手）

【篠田】　ありがとうございました。全員の皆さま方の賛同の拍手でございましたので、次回から正式な会員として加わっていただきたいと思います。それでは私の役割はこれでおしまいでございます。皆さま方、ご協力ありがとうございました。

次期開催地発表

【幸手市・増田】　次期開催地について発表いたします。第 13 回さくらサミットの開催は茨城県日立市さんにお願いいたします。

【日立市・樫村】　次回の第 13 回さくらサミット開催地のご決定をいただきました茨城県日立市の樫村でございます。大変光栄に存じます。また責任の重さを痛感するところであります。日立市の名称は日立製作所の名称ではありませんで、実は水戸藩二代藩主の徳川光圀が当時の日立地方を訪れたときに、太平洋から昇る日を見て「太陽の立ちのぼるところ領内一」と言ったという故事から付けられた名前です。日立市は東京から約 150 キロの地にございます。北側には福島県、西側には栃木県、南は千葉県です。東側は太平洋に面し、西側は阿武隈山系の南端に位置しています。

日立市は先ほどもお話し申し上げましたように、明治期に日立銅山、そして日立製作所が誕生してからは、日立製作所の発展とともに進んでまいりましたまちです。しかし昨今の経済情勢の変化のなかで日立市も大変元気がなくなっております。しかし先ほど発表させていただきましたように、日立市の住民運動のなかで観光資源を有効に活用する、あるいは産業遺産を有効に活用するなどの新しい目線が出てきております。このようなことを利用して、元気なまち日立をつくりたいということで努力しているところです。

日立市は日本の桜名所 100 選にも選ばれた平和通りやかみね公園などの桜が息づいているところであります。桜の開花するさくらまつりには、国指定の重要文化財であります日立風流物が催され、大変賑わいを見せております。ぜひともサミット加盟各自治体の皆さまには、全員ご参加いただけますよう心からお願い申し上げるものです。また 13 回目のさくらサミットが有意義なものとなりますよう精一杯努力してまいる所存です。

最後になりますが、今回のさくらサミット開催にあたり、特段のご配慮、ご尽力をいただきました幸手市の増田市長さんをはじめ、関係の皆さま方に心から厚く御礼を申し上げますとともに、さくらサミットの益々のご発展と加盟自治体の益々のご発展をご祈念申し上げ、御礼の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

第 12 回さくらサミット in 幸手　共同宣言

第 12 回さくらサミットは 2000 年という記念すべき年に全国 18 自治体が一堂に会し、ハッピーハンドシティ幸手市で開催いたしました。「さくらサミット」は 1988 年から 11 回にわたり参加自治体が誇る、さくらに関する共通の課題をテーマに開催して参りました。現在まで蓄積された提言、施策は参加自治体の貴重な財産となっています。

ミレニアムサミットである今回は、さくら「新発見」「新情報」～幸せの手でつかむ桜の未来～をテーマに討議、情報交換を行いました。参加自治体におかれましては、いずれも桜をもとに個性あるまちづくりに全力で取り組んでおられ、多彩な考えと討議内容で未来にむけての光がまたひとつ見つけられました。

私たち、さくらで結ばれた自治体として、21 世紀を迎えるにあたり、常に新しい情報に敏感でさらにネットワークの強化を図りながら本サミットから全国へさくらの素晴らしさを発信していくことをここに宣言します。

平成 12 年 4 月 9 日

北海道静内町	宮城県柴田町
秋田県角館町	福島県富岡町
茨城県日立市	群馬県鬼石町
埼玉県北本市	東京都北区
新潟県上越市	新潟県加治川村
長野県高遠町	岐阜県根尾村
奈良県吉野町	島根県木次町
長崎県大村市	熊本県水上村
宮崎県北郷町	埼玉県幸手市

第 12 回「さくらサミット in 幸手」開催地代表
埼玉県幸手市長　増田実

第9回幸手市さくらマラソン

招待選手寄稿文

さくらマラソン招待選手

●秋田県角館町　鈴木幸一

「第 12 回さくらサミット in 幸手」の華やかな、第 9 回のマラソン大会にご招待いただきましてありがとうございました。

今年の秋田の冬は長く、3 月でも雪の積もる日が時々あり、充分な練習もできず目標は完走という事で参加させていただきました。

私も今年初のマラソン大会で、参加自治体の北は北海道、南は宮崎の招待選手などと共に浅井えり子選手を中央にスタートラインに、春爛漫の午前 9 時半、号砲と共に桜並木を通り名所“ 権現堂桜堤 ”桜のトンネルをくぐる時の爽快さ、堤防の両側で“ 幸手 ”と小旗を振りながら声援してくださった市民のみなさんと観桜中の方々、上を見れば桜のピンク、下を見れば黄色い菜の花畑の鮮やかなコントラストで最後のひと頑張りと、ランナーとして初めて味わう光景と感動でした。また私の走った 10 マイルのコースは国道と広々とした田園の広域農道、そして桜の街路樹とゴールの市営競技場と素晴らしいマラソンコースで、全国ランニング大会 100 選に選ばれるのはもっともだと思いました。

タイム、順位とも満足で心地よい汗を流させていただき、私のマラソン人生に深く刻まれた大会となりました。

本当に厚くお礼申し上げます。

●宮城県柴田町　千葉和也

柴田町の代表として、幸手市のさくらマラソンへ参加するように要請を受けた時、幸手市という街を初めて耳にし、まったくイメージが浮かんでこなかった。桜を売りにしている街でも、柴田町の一目千本桜にはかなわないだろうと思っていた。しかし、マラソン大会の規模には驚きを隠せなかった。なんと 5000 人ものランナーが参加するというではいか。今までの楽観視していた気持ちが一気に不安へと変わった瞬間であった。

大会前、町長から直々に激励の言葉を頂き改めて緊張感が高まると共に集中力も高める事ができた。

大会前日、柴田町代表の他の三人と幸手市へ移動した。皆、幸手市へ行くのは初めてという事で、電車の中で色々と幸手市の事を語りながら、およそ 4 時間の道のりを過ごした。幸手市へ近づくに連れ、車窓からは 4 月初旬だというのに、桜が咲いているのを見て、緊張感がより高まってきた。

幸手市に到着した時の感想は、桜がどこにもなく少しガッカリした。その夜は、次の日にそなえ、いつもより早めに床に就いた。

大会当日、朝から天気も良く、走るのには絶好のコンディションとなった。会場に到着し、開会式で浅井えり子選手と一緒に写真撮影できて大変感動した。

いよいよスタート。東洋大学の方や本田技研のトップランナーとスタート地点に並び緊張感も最高に達しスタートをした。すると目を疑うような素晴らしい桜のトンネルの下を通り身震いが走るような光景を見ることができた。きっとあの光景は、一生忘れないだろう。その後も田園や市街地や桜の木の下を走り、10 マイルの行程を楽しみながら走る事ができた。

結果としても、満足のいく結果を残す事ができ、有意義な大会とする事ができた。

最後になりましたが、幸手市の皆さん、柴田町の皆さん、その他多くの関係者の皆さんには大変お世話になり、ありがとうございました。

●茨城県日立市　下田恭子

「10 マイルってなんて長いのだろう」というのがこの大会への第一印象でした。

私は、学生時代に陸上競技をやっていましたが、専門は中距離でした。そのため、この 10 マイルという距離に対しての不安は非常に大きく、参加するかどうか迷いました。参加を決意した 1 番の理由は、さくら並木を走ることができるからです。でも、正直いうとさくらマラソンという名がついていても、それは一部だけで大したことはないだろうという気持ちと、名前の通りすばらしいさくら並木なんだ、めったにそんなコース走れないのだという気持ちが頭の中をぐるぐるとまわっていました。

当日を迎え、まず初めに驚いたことは、参加者の多さです。これだけの人に出場したいと思わせるさくらが待っているのかという期待が膨らみました。また、スタート地点で女性のランナーと話す機会がありました。その女性は、埼玉県外から来ており、毎年参加しているそうです。魅力は、もちろんさくらと話していました。私のさくらに対する興味は、ますます大きくなったのです。

走り出してびっくりしました。私が想像していたさくらのトンネルが目の前に飛び込んできたのです。10 マイルという距離は、長く楽に走れるものではありません。でも、さくらがあったから目で楽しみながら気持ちよく完走することができたのだと思います。

私の勤務先である日立市にも幸手市のようなすばらしく、素敵な桜並木があります。桜が満開になる季節には、ライトアップがされ、昼に見るものとは違った美しさを見せてくれます。何度見ても飽きないぐらいです。こちらの桜も大勢の方に見てもらいたいです。

今回、この大会に参加して、走る楽しさをもうひとつ見つけることができました。

●埼玉県北本市　きたもと楽走会　中村律子

桜花爛漫、そんな言葉を思いうかべる満開の権現堂の桜。

強い風もなく、おだやかな春の日、桜のトンネルのなかを菜の花畑を見ながら走る 1 キロの道のなんとすばらしかったこと。土手を下りてからのながめもまた見事でした。

コースの途中にも桜の木が多く、幸手市が「さくらの街」の名にふさわしい所と感じました。

当日配布された大会名簿のコース略図を見て、公共施設のトイレの文字が目につきました。トイレに寄ることはまずないのですが、走っていてこの看板を見ると、何か安心して走ることができました。

沿道の市民の方の応援も続いており、「きたもと」と文字の入ったランニングを着て走っていたので、何

人かの方に「きたもと頑張って」と励まされました。笑顔で答える余裕がなかったのが残念ですが。

ゴール近くにも桜並木が続き、道路も広く最後まで気持ち良く走ることができました。給水所にはバナナ、オレンジまでおいてあるのには感激しました。

私にとっては 10 マイルはきつかったのですが、権現堂の桜の中を走れるというのでこのコースを選びましたが、本当に良かったと思いました。

桜を見たさに応援についてきた友達も、なんとか完走できた私も、共にまた来年も参加したい、そんな桜色のやさしい思いの残るさくらマラソン大会でした。

大会関係者の皆様、ありがとうございました。

●東京都北区　北区役所陸上クラブ　細田浩二

先日はさくらマラソンにご招待いただきましてありがとうございました。天気にも恵まれ満開のさくらを鑑賞しながら楽しく走ることができました。昨年は雨の中行われたとお聞きしましたので、今回は本当に天気に恵まれて良かったです。また、レース前から招待選手ということでバスの中で着替えさせてもらったり、レース後は昼食までご用意いただき、何かと心遣いいただきまして感謝しています。

レースの感想としては、マラソンコースはアップダウンも少なく、幸手市民の方々の声援が多くてとても走り易かったです。

特に権現堂の桜堤は満開のさくらを鑑賞でき、しかも声援も多くとても楽しく走れました。たしか 2 キロ地点くらいだったでしょうか。もし後半だったらあまり鑑賞している余裕もなかったでしょうから、ちょうどいい地点に権現堂があったと思います。レース後の豚汁は格別でした。また、さくらを眺めながらのビールも最高。本当に楽しく過ごさせていただきました。来年もまた参加したいと思います。もちろん今度は一般参加として。

これからもこのすばらしい大会をぜひとも継続していって下さい。今回は本当にありがとうございました。

●長野県高遠町　田中　均

この度、第 12 回さくらサミット in 幸手を記念して開催されました幸手市さくらマラソンに招待され参加させていただきありがとうございました。

さて、今回は 10 マイルに参加させていただいた訳ですが、桜も丁度満開の時期でありスタートから約 1 キロの桜並木、2 キロから 3 キロまでの権現堂桜堤桜のトンネル、多くの花見客の応援、沿道での市民の皆さんの応援、フッと安心する田園地帯、そしてラスト 2 キロの桜並木と、本当に気持ち良く走る事ができました。また、浅井えり子選手との記念撮影、握手もでき、とてもハッピーでした。また機会がありましたら、さくらマラソンに友人を誘って参加したいと思います。

今回のマラソンを支えてくれたスタッフの皆様、桜まつりと重なり、大変御苦労された事と思います。そして、沿道で応援してくれた幸手市の皆様のあたたかさを感じました。本当にありがとうございました。

私達の町、長野県高遠町もここだけでしか見られないコヒガンザクラと、中央アルプスと南アルプスに囲まれた風光明媚な、桜といで湯の城下町です。時期は、幸手市よりも 1 週間から 2 週間程遅いので是非、花の高遠へ足を延ばしてください。お世話になりました。

●島根県木次町　木村元紀

私にとって、マラソンとはとかく歯を食いしばって苦渋に耐えてとにかく頑張るというイメージがとても強い感じがする競技であると思っています。特に学生時代の体育の思い出でいうと楽しい授業イコール球技、それに反比例するかのようにきつく楽しくない授業（おもしろくない授業）イコール持久走（マラソン）といった感じが今も記憶の中に残っています…。という私自身も体育大学出身で体力には人並み以上に自信があるのですが、今大会に参加するにあたって約 16 キロという距離に対し、大変な不安を大会当日まで抱いていました。

しかし、今回さくらマラソンに参加して確かにレース自体は大変苦しいものでしたが、大会の独特の雰囲気やいつもと違った立場の開会式、スポーツ店やたくさんのブースの多さ、そして何よりも多くのボランティアの皆さんの給水や応援などの心暖まる特別な配慮など、私の成績以外すべての面で満足で心に残る大会となりました。

最も印象に残ったのは、スタートして直後の 1 キロメートルにも及ぶ見事な桜のトンネル。そしてたくさんの花見見物の観光客の皆さんの温かい声援にも後押しされ、桜トンネル内にあった途中 3km 掲示の通過タイムは 10 分少々…。このままのペースでいったら、あわや上位入賞か！と思ったくらい気持ち良く走れましたが、そう思ったのも束の間、桜のトンネルを抜け、一般道路にでてからは 1 キロ 1 キロが大変長くレースに集中する事よりも「ゴールはまだか！」と思う気持ちの他、何も考えることはできませんでした。そして、数え切れない位のランナーに抜かれて精も根も疲れ果てたころ、ゴールの競技場が見えた時の気持ちと言えば言葉ではとても言い表せません。

この幸手市さくらマラソンの目玉は、コース上のたくさんの桜やそれに隣接して咲く菜の花の素晴らしさの他に、それに匹敵するぐらいの幸手市民の皆さんと警察・役所関係者のこの大会に対するご理解の高さだと思っています。

いよいよ来年は第 10 回の記念大会、機会があればまた参加してみたい大会となりました。

最後に桜のトンネル、一面の菜の花など今一層美しさを増し、後年に永遠に受け継がれるような今以上に立派な大会になることをお祈り申し上げます。

●島根県美都町　領家哲也

第 12 回さくらサミット in 幸手開催記念として、さくらマラソンにご招待いただき厚くお礼申し上げます。体育協会陸上部長から誘いがあり、喜んで参加させていただきました。

近くで開催されるいろいろなマラソン大会にはできるだけ参加するようにしていますが、島根県からはるかに遠い埼玉県幸手市の大会に参加するなんて考えてもいませんでした。大変ありがとうございました。

アップダウンも少なく、沿道の皆さんの応援も多く、楽しく走ることができました。

中でも関東随一の桜の名所権現堂桜堤を走ることができたのが、何よりも思い出深いものとなりました。好天気に恵まれ、1 キロも続く満開の桜のトンネルを、大勢の方の声援や拍手の中で気持ち良く走れたことは、忘れることができません。

美都町も桜とゆずの町づくりをテーマとして取り組んでいますが、まだまだ桜の木も小さく、幸手市の権現堂桜堤のように多くの方が見にこられるようなところはありません。1 万本を植える運動を始めて 15 年ばかり経過したところです。ぜひとも美都町にも桜の名所を作りたいものだと思っています。

わたしは、ジョギングを始めてから 2 年ばかりです。スピードや瞬発力は衰えていくばかりですが、持久力は練習によって鍛えることができると確信しています。今回の大会に私よりは年の上の方が、ずいぶん多く前を走っておられました。今年はもっと夏場に練習して、秋からの大会に頑張りたいと思っています。

ところで、第 1 回さくらサミットが島根県木次町で開催されたときに、参加しました。木次町の桜もすばらしく大勢の方が見にこられていたことと、記念講演として作家の童門冬二さんの講演がすばらしかったことを良く覚えています。

あれから 11 年も過ぎたのかという思いと幸手市のすばらしい企画により、今回はマラソンの選手として参加することができたことを不思議な気持ちとともに嬉しく思っています。

大会の成功に向けて多くのボランティアの皆さんがお世話をされているのを見て、幸手市は活力があると改めて感じました。

最後に、前日から当日にかけて幸手市役所の皆さんには本当にお世話になりました。ありがとうございました。

●島根県美都町　花本国雄

「埼玉県まで走りに…？何も、そんな遠くまで走りに行かなくても…。あんたも好きね」と、暖かいような冷ややかなような激励を家族や職場の同僚から受け、人口 3000 人に満たない地方の町から同じ職場の者と 2 人で参加させて頂きました。

40 才になり、体力も体型もかなり危ない時期にさしかかり、20 年ぶりに再び走り始めてから近隣のロードレースや駅伝大会に仲間を誘いながら出場してきました。これまでもハーフマラソンの経験はあり、日常の練習でも 10～15 キロは走り込んでいるので 10 マイルという距離に不安はありませんでしたが、何せこれまでは数百人規模の大会ばかりで数千人が一斉にスタートする大会は初めての経験でした。

目標を 1 時間 3 分に設定し、遠慮がちに中段あたりに陣取ったものの、やっぱり進まない。ピストルの合図があった 20 秒後にやっとスタートしたが、団子状態で歩く程度。1 キロ通過した頃からようやく走り始めることができまし

た。

快調・快調。特に両サイドに桜が咲き乱れた並木道を走るあたりでは、沿道からの声援も一際大きく気分爽快。この調子だと 1 時間を切るのではないかとさらにペースアップ。5 キロ通過はほぼ設定タイム通りで中間点へ。しかし、この中間点あたりから苦しくなりペースが徐々に遅くなる。10 キロを通過した頃には完走できるかどうか怪しい雲行きになるが、沿道からの頑張れコールに後押しされ何とか足を止まらせずに、ゴールイン。目標のタイムには 4 分以上も遅れたものの、市民の皆さんからのたくさんの声援を栄養剤、エネルギーとして完走させて頂きました。

さくらサミットを通じこの大会にご招待いただきましたが、とても想い出深い遠征であり、私の「走り続ける」という意欲を大きくしてくれた「さくらマラソン大会」でした。

企画された行政関係の方々をはじめ、大会運営にあたられた皆さん、沿道から声援を送っていただいた幸手市民の皆さん、たくさんの暖かい心に触れさせていただき本当にありがとうございました。

この大会に参加されたランナーの皆さん、またどこかの大会でお会いしましょう。

●宮崎県北郷町　稲田正男

さくらサミットを記念して開催されました幸手さくらマラソンに御招待をいただき心からお礼を申し上げます。

昨年のさくらサミットは当町（北郷町）で開催され、その際のお礼も兼ねて参加させていただきました。当町より 3 名参加させていただきましたが、代表して筆をとらせていただきます。

こちらを出発した 4 月 8 日には、当町の桜はほぼ満開で幸手市の桜も満開であってほしいと期待して、私は息子（小学校 3 年生）を応援に同行させ空路で東京に出発。息子は初めて飛行機に乗ることもあり、緊張しながらの 1 時間半でした。その日は浅草泊りで雷門を観光し早めに夕食をとり、明日のことも考え就寝。朝 5 時起床近くのコンビニで朝食を買い、幸手市へと向かいました。

3 月 12 日に宮崎県内の東九州自動車道開通記念ハーフマラソンに出場した後、充分な練習もつまず、また足のねんざも重なって不安をかかえ幸手駅を降りました。すでに送迎バスを待って行列ができていて、花見のお客さんも多く混雑しバスの運行が大変だったようです。

桜のほぼ満開の会場は、多くのランナーで熱気ムンムン、足のねんざもいっぺんに吹き飛んでしまいました。招待者用のゼッケンをもらいウォーミングアップ。タイムは考えず桜を楽しみながらと言いきかせ着替えも済ませ準備 OK。開会式ではサミットに参加する当町の町長、副議長、企画課長も参列しており、浅井えり子選手にも初めて会えて感激したところです。

スタート 10 分前、すでに長い列ができていてあつかましく中盤位に入れてもらいいざスタート！

ランナーの皆さんも桜を楽しみながらのマラソンかなあと思ったら大間違い、元気な人ばかりで私にとっては目いっぱいのペースで始まり最後まで大丈夫かなあと不安。しばらくすると権現堂桜堤にはいり、満開の桜のアーチをくぐり、花見のお客さんの熱い声援を受け最高の気分で走る。市内も桜もとてもきれいで、コースもほぼフラットでとても走りやすいマラソンコースでした。終盤、町長たちの応援もあり、工業団地付近を走っていると球場が見えペースアップしてゴール。タイムは 1:09’47”で練習量やけがから

すると上出来。お昼を済ませ万全の運営をしていただいたスタッフの方々にお礼を申し上げお別れをしました。

最高の天候、最高の桜で楽しい一日を過ごさせていただきましたことに深く感謝申し上げお礼といたします。

第 12 回さくらサミット in 幸手

～幸せの手でつかむさくらの未来～

報告書

発行日／平成 12 年 6 月
発　行／幸手市建設経済部商工観光課
〒340-0192
埼玉県幸手市東 4-6-8
TEL　0480-43-1111